

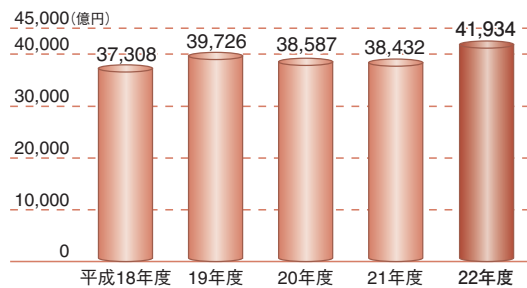
# 業績ハイライト

経営目標として掲げた「当会の経営体質・収益力の強化」、「信用組合の経営力強化への寄与」の実現に向けた諸施策を実施いたしました。

平成22年度は、このうち「当会の経営体質・収益力の強化」に重点を置き、4兆1,934億円と豊富な資金量を、3兆3,215億円に上る有価証券を中心に運用した結果、経常利益は67億円、当期純利益についても43億円の黒字となりました。

また、金融機関の健全性を示す指標である単体自己資本比率は18.25%と、信用組合の系統中央金融機関として十分な経営体力を維持しております。

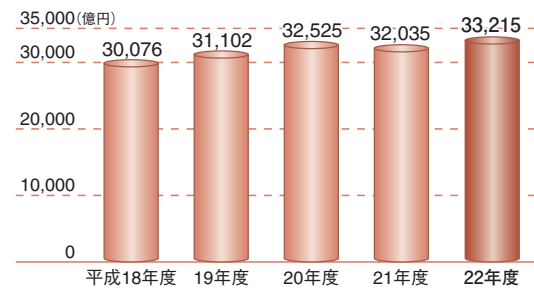
## 資金量(平残ベース)



### ● 資金量は高水準で推移

信用組合業界の預金量が堅調に推移したため、定期性預金を中心に前期比約3,000億円増加し、資金量は4兆円を突破しています。

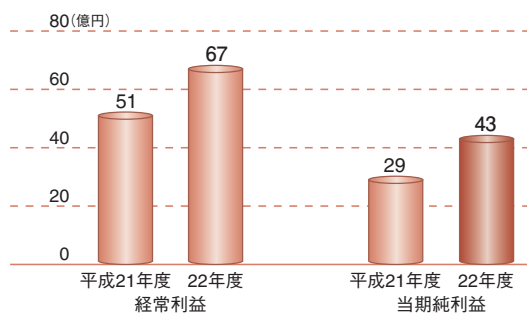
## 有価証券(平残ベース)



### ● 国内有数の機関投資家として活動

有価証券残高は、資金量の増加等により前期比約1,000億円増加し、引き続き3兆円を超える資金を運用する国内有数の機関投資家として活動しています。

## 経常利益・当期純利益

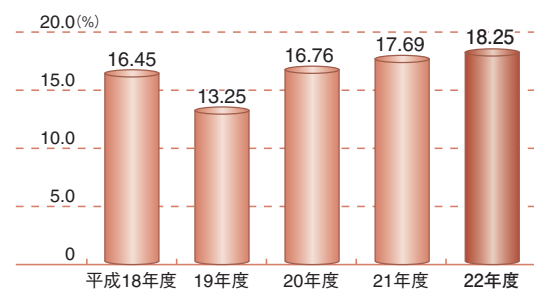


### ● 前期を上回る利益の確保

市場環境に応じて、やや長めの国債購入や円建ての外国証券の積み増し等を行ったことから、ポートフォリオの収益性が向上し、経常利益は前期比16億円増加の67億円となりました。

また当期純利益は、前期比14億円増加の43億円となりました。

## 自己資本比率(単体)

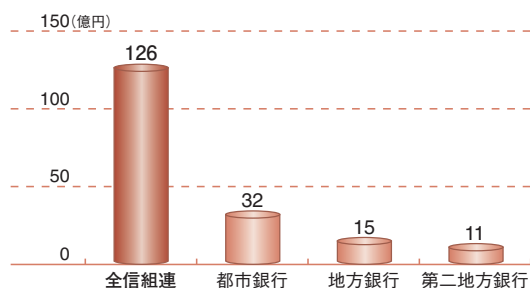


### ● 国内基準を大幅に上回る18.25%

内部留保の積み増しに加え、自己資本比率算定上の分母にあたるリスクアセットの減少により、単体自己資本比率は前期比0.56p上昇し18.25%となりました。

また、自己資本の質を表わすTier I 比率は19.89%と高い水準にあります。

## 役職員1人あたり資金量



### ● 都市銀行を上回る効率性

役職員1人あたりの資金量は120億円と都市銀行6行の平均(32億円)の3.9倍にのぼり、金融機関としての効率性は非常に高くなっています。

- (注) 1. 各業態の資金量は預金、譲渡性預金、債券の合計額です。  
2. 各業態の計数は、平成22年度仮決算(全国銀行協会発表)の数値を使用しています。



## 全信組連のシンボルマーク



全信組連のシンボルマークは、「信用組合」の「S」をモチーフに作られており、「信用組合業界のダイナミックな拡がり」とその中核にある全信組連の「求心力」を表現しています。

個々の図形と色は、信用組合の多様な業態(地域・業域・職域)とそのコミュニティー、また全信組連と信用組合が提供する多種・多様な金融サービスや商品を表しています。

また「S」には、信用組合の活動を支援する「Support (補完)」、信用組合のニーズを満たす「Satisfaction (満足)」、および全信組連と信用組合業界全体の「Sound (健全性)」を表現しています。

## コーポレートカラー

全信組連のコーポレートカラーは、シンボルマークに使われている「ユニオンブルー」、「ユニオンレッド」、「ユニオンイエロー」の3色です。

各色には、それぞれ以下のような意味を持たせています。

■ ユニオンブルー	信頼性・未来感・若々しさ・安心感・成長
■ ユニオンレッド	積極性・活動力・情熱・発展
■ ユニオンイエロー	希望・光明